

# チャレンジ支援委員会 「おせっかい侍の発表応募支援 STEP1」 報告書

チャレンジ支援委員：天野、香月、末松、高橋、吉川

2024年3月10日 13:00-15:00 オンライン開催

## 「発表のタネ探しー現場の課題や実践を大会・支部集会発表につなげようー」

2023年度「おせっかい侍の発表応募支援 STEP1：発表のタネ探し」（オンライン）には、13名の方にご参加いただきました。これから研究を本格的に進めていく学部生・大学院生の方、すでに発表経験がある方、教育経験年数が長い方など、多様な背景の方々が集まってくれました。また、現地時間朝6時にヨーロッパからご参加の方もいらっしゃいました。

まず、「第1部：『はじめての発表』の体験談を聞こう」では、水井佑美氏（友国際文化学院）と新谷知佳氏（フェリス女学院大学：2022年度日本語教育学会秋季大会大会若手優秀発表賞受賞者）にご登壇いただきました。水井氏は、2023年度秋季大会でポスター発表をご経験で、その際、「おせっかい侍の発表応募支援 STEP3」で発表応募原稿のチェックをご活用いただきました。ご自身を「研究に向いていない」とおっしゃる水井氏が周囲の協力を得て学会発表まで至ったプロセスをお話しいただきました。新谷氏からは、現場で教えていて感じた疑問（タネ）をどのように育て、学会発表レベルまで発展させていくか、具体的な手法も交えてお話しいただきました。お二人ともにご自身が経験されたステップを一つひとつ丁寧に説明くださったので、参加者の方々も、発表までの道のりを明確にイメージすることができたようです。

「第2部：グループワーク『発表につなげるタネを一緒に探そう』」では、3グループに分かれ、ディスカッションを行いました。チャレンジ支援委員がファシリテーターとして各グループに参加し、いずれのグループも時間が足りないほどに活発な対話が進められました。その後、全体で各グループの話した内容を共有し、閉会しました。閉会后に設けていた交流用のブレイクアウトルームにもほとんどの参加者が移動し、最後まで熱心なやりとりが行われていました。

参加者事後アンケートには参加者全員の方がご回答くださり、全員の方から「満足できた」「役にたった」との回答をいただきました。また、「励まされた」「自分のやりたいことを言語化できたのが良かった」「委員会の方々の聞く姿勢に安心して参加できた」という嬉しいコメントもいただきました。

今回の企画では、ご自身の実践や研究での悩みが語られることが多くありました。多様な背景、経験を持つ方々が集まって悩みを語り合うことで、新たな観点からの気づきにつながったようでした。本企画が参加者の方々それぞれにとっての「第一歩（STEP1）」になっていましたら幸いです。登壇者および参加者の皆様、どうもありがとうございました。

